

---

# ママのところへ

notomo

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ママのところへ

### 【Nコード】

N72480

### 【作者名】

notomo

### 【あらすじ】

一度は、自らの意思で天国へ来てしまった少年。次に、神様が定められた少年の運命は―

「しょうがい」も、個性に変えられる、ということは何より伝えたいです。「普通」は、人の数だけあると、私は信じています。

**(前書き)**

一度は、自らの意思で天国へ来てしまった少年。次に、神様が定められた少年の運命は―

「ママのところへ」

ここは、天国の中でも、一番高い場所。ここで、赤ちゃんの卵たちが、ママを選んで、人間界におりるのです。

「ぼく、前は猫だったんだ。すごく、かわいがってもらってたんだから。ぼくがこっちに来たとき、みんな、すごく泣いて。だから、ぼく、今度は人間に生まれて、ママをいっぱい喜ばせてあげるんだ」  
希望いっぱいの子。さっそく、すてきなママを見つけたらしく、天界からピューツと降りていきました。

ここには、いろんな子がいます。みんな、自分が生きていたときの記憶をすっかり持っていて、それをたよりにママを選びます。

さっきの子のように、すぐにママを選べる子ばかりではありません。  
ん。

「あたし、ママに知らない男の人に売られて、病気になってここに来たわ。人間は絶対に嫌よ。平和な国の、動物にうまれたい」

辛い過去を持って、ママを選ぶのに時間がかかる子だったとくさんいるんです。

もう、一年以上迷っている、男の子がいます。神様は、  
「ゆっくり決めなさい」

と、その子に優しく話しかけます。でも、その子は、ここに来て、も、男らしくなれず、ぐずぐずしている自分が嫌でなりません。

この子は、ここに来る前、人間の男の子でした。ただし、心は女の子。両親は、その子の性格を嘆き、特に厳格な父親に、柔道、剣道としごかれ、学校で深刻ないじめにあった末、自らこちらに来たのでした。

願いはただ一つ、女の子に生まれたい。世界のどこだって、ううん、動物だってかまわない。

なんとという運命のいたずらでしょう。その子は、またも神様から

「男」という性を授けられてしまったのでした。

神様だって、でたらめに決めている訳ではありません。その子の前世で果たせなかった幸せ、目的を果たせるように、性別を振り分けます。

もちろん、その子は神様を恨みました。でも、もうどうにもなりません。早くママのところへ行かないと、行きたくてたまらない子が、ずっと待っているんです。

「動物のところへ行こうか。言葉がなければ、洋服がなければ、いじめられない。そして、次にこっちに来たときこそ、神様に、女性を授けてもらおう」

そう決め、小さな家庭犬のところに飛ぼうとしたとき、神様の杖につまづいてしまったのです。

グラリとバランスを崩して、犬のところではなく、その家庭の人間の母親のお腹にすぽんと入ってしまった。もう、嘆いても始まりません。一度お腹に入ってしまうと、赤ちゃんの卵は、前世を忘れて、深い眠りに入ってしまう。

重い足取りで、病院へと向かう、少し疲れたような女性がいます。そう、この人こそ、あの男の子のママ。ずっと赤ちゃんが欲しくてたまらず、今回は、最後の望みを託した治療の結果を聞きにきたのです。あらゆる治療に失敗した彼女は、疲れきっていました。女性の旦那様、男の子のパパはママをとて愛していたので、

「これ以上は、君に負担がかかりすぎるよ。愛する君がいてくれるだけで、僕は十分に幸せだよ。だから、これで最後にしよう」

と、昨晚、ママに告げました。

ママも、もちろんパパを愛しています。だからこそ、彼が子供を大好きなのも知っていて、彼を喜ばせてあげたいのです。でも、これ以上は・・・

病院について聞いた知らせは、ママが覚悟していたものとは正反對。なんと、元気な赤ちゃんがお腹にいますと言うではありませんか

「神様、感謝致します」

ママは、大粒の涙をぼろぼろこぼし、すぐにパパに電話で知らせました。

その夜は、二人でお祝いです。ママも、パパも、幸せいっぱいでした。

「この子、わたしを選んでくれたのかしら」

「もちろんさ。君は優しく、深い教養があつて、なんと言つても、このぼくの最愛の人なんだから」

「あなた・・・」

二人は、温かい気持ちで、抱き合いました。パパは、ママのお腹を優しくなでながら、

「おい、聞こえるかい。パパだよ。ぼくたちは、君を大歓迎するよ。来てくれて、本当にありがとう。」

ママも、

「赤ちゃん、もうあなたはママの声が聞こえるかしら。あなたは何も心配いらぬのよ。ママもパパも、どんなことがあつても、あなたのことを愛し抜くわ」

赤ちゃんは深く眠っていたので、何も聞こえませんでした。ただ、あたたかな安らぎだけは感じ取っていました。

ママは、しっかりご飯を食べて、病院にもきちんと言います。

「もう、赤ちゃんのせいべつがわかりますよ」

と、お医者さんにいわれたときも、

「どんな子でも、愛おしくてたまらないので、教えてくれなくていいです」

と、言いました。もちろん、パパも同じ意見でした。

ママのお腹は、どんどん大きくなって、もういつ生まれてもおかしくありません。毎日、夫婦でそわそわしています。

ある穏やかな日曜日、とうとう、待ち望んだ赤ちゃんが生まれましました。日曜日だったので、ママとパパ二人とも、赤ちゃんの産声を聞くことができました。

赤ちゃんは、愛情いっぱい育てられました。名前は、二人にと

つての希望の光からとって、「ひかる」と決まりました。

ひかるも、二歳になりました。ママもパパも、ただひかるの面倒を見るだけではなく、大切なことを少しずつ教えていきました。

「みんなに優しくすると、自分も、幸せになれるよ」

「ひかる、あなたはママとパパの宝物。このことを、忘れないで。」

二人は、もう一つ大切にしていることがありました。それは、ひかるの意見を聞く、ということでした。お散歩のときも、どこにいききたい？と、必ず聞きましたし、お洋服も、ひかるが全部自分で選んでいました。赤やピンク、レースが大好きなひかるに、ママもパパも少し驚きましたが、ひかるが好きなら、と否定をすることは決してありませんでした。

ひかるは、みんなに優しい、礼儀正しいかわいい子に育っていました。そして、いよいよ幼稚園に入ることになりました。

「ママ、ひかるとはなれるの寂しいけど、幼稚園で、いろんなお友達に出会ってほしいわ。優しさを忘れないでね」

「ひかるだったら、すごくたくさんのお友達ができるよ。いろんなこととお遊び。幼稚園の話、楽しみにしてるよ」

ひかるも、

「うん、ひかるも、早く幼稚園行きたい。明日が待てないくらい。明日は、これを着ていく。」

真っ白のワンピース。ひかるは、それを自分の胸に当てて鏡の前でくるくる回っています。

ママも、パパもそんなひかるを、暖かく見つめていました。しかし、ある覚悟も決めていたのです。

昨晚、ママとパパは、ひかるが寝た後、長い長い話し合いをしました。

「ひかる、幼稚園でかわられるんじゃないかと、心配なの。きっと、性同一性しようがいだわ。大丈夫かしら。」

パパは、優しくママを抱きしめました。

「しようがいか・・・でも、それは、僕らのひかるへの愛も、ひ

かるの個性も、奪ってしまうものなのか？そんなことはないさ。僕らの愛は変わらないし、ひかるはひかるさ。大事なことは、あの子の心にきちんと育っているよ。だから、ぼくは心配しないのさ」

ママも、パパの言葉に支えられて、ひかるへの愛を再認識しましたそして、ひかるの「個性」も。

幼稚園一日目。ひかるは、早速、男の子に、ご自慢のワンピースをからかわれました。

「なんだよ、その服ー。」

「お前、男のくせに、変だぞ！」

ママは、教室で先生のお話を聞きながら、園庭を見ていると、ひかるが男の子たちに囲まれているのを見かけました。

「へんって何？みんなと違うこと？いろんな人がいるってパパもママも言ってたよ。ひかるは、君たちみたいな色より、こっちが好きなだけ。でも、君たちの服も、似合ってるね。君たちの好きなことが知りたい。お友達になろうよ」

男の子たちは、あっけにとられてしまいました。

「ひかる、おもしろいな。そうだな、何にも悪いことなんてないよな」

「どんな遊びが好き？」

男の子も、女の子も、ひかるの周りによってきました。そして、ごく自然に、ひかるはみんなになじんでしまったのです。

お家に帰ってからひかるは、ママとパパに、今日のお話をしました。最初に言われたこと、でも、自分が心の通り話したら、みんなとお友達になれたこと。ママもパパも、さらにひかるが愛おしくなたまらなくなりました。

これから、ひかるには、いろんな試練が降り掛かるかもしれません。でも、この家族にとって、それは、いろんなことを知るチャンスなのです。険しい道も、笑顔で上っていきましょう。

天国で、神様が、ひかるを見ていました。あるとき、あそこに杖を転がしたのは、実は神様だったのです。みんながそのまんまで、



幸せになれる社会を作る強さが、あの家族のもとにあの子が行くことで、生まれると信じておられたのです。一人の幸せが、みんなの幸せになることこそ、神様の願いだったのです。

(後書き)

私は、ASです。ずっと、普通になりたくて、なりたくて・・・

自信のなかった私に、私の個性が好きだと言ってくれた主人。色々な経験をしているから、お話が書けるよとも言ってくれました。

私も、それを伝えたくて、このお話を書きました。皆様の心に届きますように。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7248o/>

---

ママのところへ

2010年11月5日12時17分発行